

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピネス国際放課後等児童デイサービス（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	R7年11月10日 ~ R8年1月26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	R7年11月10日 ~ R8年1月26日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月19日		

○分析結果

公表日 令和8年2月4日

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多言語対応と強みとし、言語・文化的背景に配慮した教育および支援を行っています。	言語や文化の違いに配慮し、視覚的支援や言語支援・遊びを取り入れながら、利用者が安心して過ごせる環境づくりを行っています。発達段階や特性に応じた個別支援を心がけ、保護者や関係機関と連携しながら継続的な支援を行っています。	職員間で支援内容の見直しを行い、多言語対応を含めた支援の質の向上や言語の偏りが無いよう継続的に取り組んで行きます。
2	子ども一人ひとりの特性に配慮した支援を行っています。年齢別にグループ分けを行い、年齢及び発達に応じた適切な活動・支援を行っています。	曜日ごとに異なる活動・支援内容を設定し、活動内容が固定化しないよう工夫しています。ミーティングで利用者一人一人に合わせた、活動・支援内容を考えている。	活動内容の定期的な見直しを行い、支援の充実に努めています。
3	日々の安全管理を徹底し、事故防止に配慮した環境を整えている。	社内研修を行い、療育中、休憩中の危険箇所の把握をおこなっています。送迎時の安全管理を徹底するため、車内置き去り防止機器を導入しています。併せて、車両点検や他の安全確認を定期的に行っています。	スタッフ間の危険認識の差をなくすため、今後も定期的なミーティングを実施し、危険箇所や安全対策の確認を行って行きます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言語の違いにより、円滑なコミュニケーションが課題となる場面があります。	対応可能な言語を話せる職員が限られているため、学校や関係機関との情報共有において、意思疎通に配慮が必要となる場合がある。	可能な限り多言語対応が可能な職員が関わる体制を整え、円滑なコミュニケーションが図れるように工夫します。
2	利用時間や活動時間の違いにより、集団活動への参加に配慮が必要となる場合があります。	利用時間や活動の進行状況に個人差があり。工作や運動活動の終了時間に差が生じることが要因となっています。	集団活動の開始時間を設定し、必要に応じて個別支援の時間を調節することで、無理なく集団活動に参加できるように工夫します。
3	関係機関との情報共有や連携について、さらなる充実が必要な面があります。	関係機関との情報共有において、配慮すべき点が多く、連携方法の工夫が求められる場面があります。	個人情報に配慮しながら、送迎時などを活用して関係機関との情報共有を行い、連携の充実を図っています。